

活動名	いしかわサテライトキャンパス推進事業「のと未来留学」「のと復興留学」（学内公募）
-----	--

貢献・連携類型	5. 学生の社会貢献活動への参加奨励
---------	--------------------

報告者	応用情報工学科	学科	職位	准教授	氏名	五味 悠一郎
-----	---------	----	----	-----	----	--------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

「のと復興留学」とは、石川県能登地方の復興を支援し、地域との交流を深めることを目的とした、大学生向けの地方留学プログラムです。具体的には、能登地方でのボランティア活動や、地域の人々との交流を通して、能登の現状を学び、関係人口の創出を目指します。現地集合・現地解散で、宿泊施設は受け入れ先から無償提供、日程は5泊6日以上という条件にて、令和6年の夏は「のと未来留学」という名称で実施され、以降は「のと復興留学」という名称で実施されています。

日本大学理工学部・日本大学大学院理工学研究科・日本大学短期大学部（船橋校舎）所属の学生に対しては、令和6年7月10日と令和7年1月15日に、学生課経由で周知されました。

【のと復興留学 | いしかわサテライトキャンパス推進事業】
<https://noto-satecam.jp/>

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

のと復興留学に参加した学生は、日本大学、とくに理工学部の学生が多かったということで、本プログラムを運営されている（株）雨風太陽の代表取締役社長である高橋博之様から感謝のお言葉を頂戴しました。のと復興留学と学内の取り組みを連携できる体制も構築できました。のと復興留学は令和6年7月～令和7年3月の期間中、全国から150名程度の学生が参加し、うち3割程度が日本大学からの参加だったそうです。研究調査目的で奥能登（輪島市・珠洲市・穴水町・能登町）を視察中に、数名の学生と出会う機会もあり、よい取り組みではあるものの能登までの交通費の負担が大きいとの声もありました。今後は、こうした社会貢献活動に取り組む学生の負担を軽減する仕組みの構築を目指します。

対象・相手先	石川県・株式会社雨風太陽
--------	--------------

協定書・依頼の有無（具体的に記入）	石川県と学校法人日本大学との包括連携協定
-------------------	----------------------

実施日時	令和6年7月～令和7年3月
------	---------------

場所	石川県
----	-----



本学からの参加者

参加学生：商学部1名、国際関係学部2名、危機管理学部4名、理工学部25名以上、生産工学部2名、工学部4名程度、短期大学部2名、理工学研究科1名、学部不明1名

